

# 尼崎市公営企業局

## 令和3年度決算の概要

---

令和4年8月 財務課



水道事業会計



工業用水道事業会計



下水道事業会計



モーターボート競走事業会計

# 令和3年度 決算の概要（水道事業会計）

## 1 財政状況

（単位：千円）

区 分		令和3年度	令和2年度	前年度差引	増減率
収益的収支（税抜）	経常損益				
	収 益	9,006,833	7,975,605	1,031,228	12.9%
	費 用	7,944,375	7,761,965	182,410	2.4%
	差 引（経常利益）①	1,062,458	213,640	848,818	
	特別損益				
	特別利益	16,336	0	16,336	-%
	特別損失	4,155	11,940	△ 7,785	△ 65.2%
差 引 ②	12,181	△ 11,940	24,121		
当年度純利益 ①+②	1,074,639	201,700 (※ 1,135,635)	872,939 (※ △ 60,996)		

※ 仮にコロナ禍における水道料金の基本料金6か月分の減免（933,935千円）を実施しなかった場合の収支である。

資本的収支	収 入	7,132	845,998	△ 838,866	△ 99.2%
	支 出	2,488,935	2,515,439	△ 26,504	△ 1.1%
	差 引 ③	△ 2,481,803	△ 1,669,441	△ 812,362	
補てん財源 ④		2,550,586	1,674,809	875,777	
資金収支	年 間 ③+④	68,783	5,368	63,415	
	累 計	7,875,919	7,807,136	68,783	

### 処分前残高

建設改良積立金	2,779,827
当年度未処分利益剰余金	1,474,639
前年度繰越利益剰余金	-
当年度純利益	1,074,639
その他未処分利益剰余金変動額	400,000
建設改良積立金取崩し	400,000

### 処分後残高

建設改良積立金	3,854,466
繰越利益剰余金	-
議会の議決による処分数額	1,474,639
建設改良積立金の積立て	1,074,639
資本金への組入れ	400,000

## 2 業務実績

区 分		令和3年度	令和2年度	前年度差引	増減率
給水人口	年 度 末	455,835 人	※ 458,562 人	△ 2,727 人	△ 0.6%
給水戸数	年 度 末	248,297 戸	247,181 戸	1,116 戸	0.5%
給水量	年 間 総 量	49,743,478 m <sup>3</sup>	50,394,726 m <sup>3</sup>	△ 651,248 m <sup>3</sup>	△ 1.3%
	一 日 平 均	136,284 m <sup>3</sup>	138,068 m <sup>3</sup>	△ 1,784 m <sup>3</sup>	△ 1.3%

※ 令和2年度の給水人口は、令和2年10月の国勢調査を反映し、修正した数値である。

### 3 決算の状況

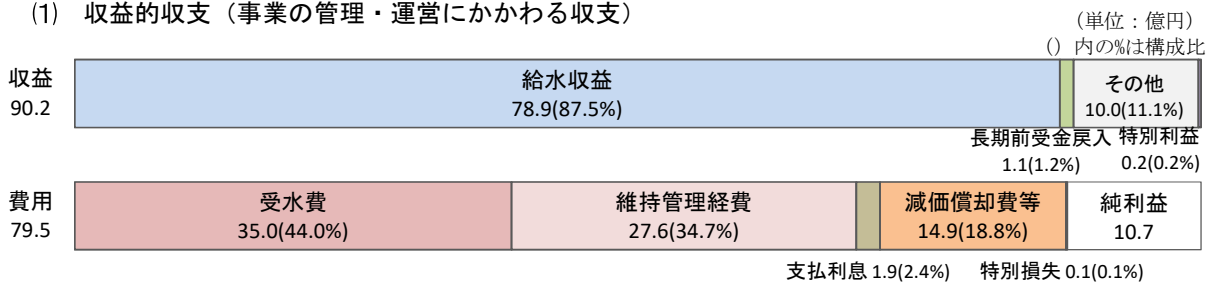
収益的収支の収益では、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ水道料金の基本料金減免を実施していたが、令和3年度は減免を実施しなかったことなどにより、前年度に比べ10億3千万円の増となる90億1千万円を計上した。費用では、人件費や、委託料などの物件費の増加などにより、前年度に比べ1億8千万円の増となる79億4千万円を計上し、差引きで10億6千万円の経常利益となった。また、特別損益では、契約に係る違約金を特別利益として計上したことなどにより、1千万円の利益となった。その結果、当年度純利益は10億7千万円となり、前年度に比べ8億7千万円の増加となった。なお、仮に令和2年度に減免（9億3千万円）を実施しなかった場合の利益と比較すると、6千万円の減少となっている。

次に、資本的収支の収入では、工事の繰越に伴い企業債の借入金が増加したことなどにより、前年度に比べ8億4千万円増となる7億円を計上し、支出では、配水管整備工事の減少などにより、前年度に比べ3千万円の減となる24億9千万円を計上した。その結果、資本的収支で不足する額24億8千万円は、建設改良積立金などの自己財源で補てんし、年度末の資金残高は78億8千万円となった。

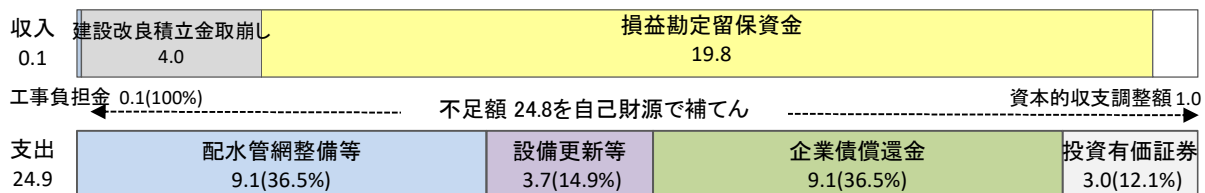
なお、令和2年度から長期的な資金状況の見通しに基づき、5億円の地方債等による運用を実施しており、債券を含めた資金残高は83億8千万円となっている。

### 4 収支構成

#### (1) 収益的収支（事業の管理・運営にかかわる収支）



#### (2) 資本的収支（施設の建設・改良にかかわる収支）



### 5 利益処分（案）について

未処分利益剰余金のうち、建設改良積立金の取崩しに伴い発生した4億円は資本金に組み入れるものとする。また、令和3年度の当年度純利益10億7千万円は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積み立てるものとする。

### 6 業務の状況

給水人口は、前年度に比べ2,700人減少したが、給水戸数は、前年度に比べ1,100戸の増加となった。年間給水量は4,974万m<sup>3</sup>で、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加などにより増加していたが、令和3年度は前年度に比べ1.3%の減少となった。

# 令和3年度 決算の概要（工業用水道事業会計）

## 1 財政状況

（単位：千円）

区 分		令和3年度	令和2年度	前年度差引	増減率	
収益的収支（税抜）	経常損益	収 益	1,749,614	1,491,972	257,642	17.3%
		費 用	1,464,876	1,191,444	273,432	22.9%
		差 引（経常利益）①	284,738	300,528	△ 15,790	
	特別損益	特別利益	278,093	233,887	44,206	18.9%
		特別損失	0	0	0	-%
		差 引 ②	278,093	233,887	44,206	
当年度純利益 ①+②		562,831	534,415	28,416		
資本的収支	収 入	138,520	78,400	60,120	76.7%	
	支 出	361,790	3,061,218	△ 2,699,428	△ 88.2%	
	差 引 ③	△ 223,270	△ 2,982,818	2,759,548		
補てん財源 ④		920,244	871,071	49,173		
資金収支	年 間 ③+④	696,974	△ 2,111,747	2,808,721		
	累 計	7,755,770	7,058,796	696,974		

処分前残高

建設改良積立金	3,724,688
当年度未処分利益剰余金	662,831
前年度繰越利益剰余金	-
当年度純利益	562,831
その他未処分利益剰余金変動額	100,000
建設改良積立金取崩し	100,000

処分後残高

建設改良積立金	4,287,519
繰越利益剰余金	-
議会の議決による処分類	662,831
建設改良積立金の積立て	562,831
資本金への組入れ	100,000

## 2 業務実績

区 分		令和3年度	令和2年度	前年度差引	増減率
給水社数	年 度 末	51 社	52 社	△ 1 社	△ 1.9%
基 本 使 用 水 量 (契約水量)	年 間 総 量	47,669,495 m <sup>3</sup>	48,093,495 m <sup>3</sup>	△ 424,000 m <sup>3</sup>	△ 0.9%
	年度末(日量)	129,763 m <sup>3</sup>	131,763 m <sup>3</sup>	△ 2,000 m <sup>3</sup>	△ 1.5%
給 水 量	年 間 総 量	21,485,579 m <sup>3</sup>	20,981,038 m <sup>3</sup>	504,541 m <sup>3</sup>	2.4%
	一 日 平 均	58,865 m <sup>3</sup>	57,482 m <sup>3</sup>	1,383 m <sup>3</sup>	2.4%

### 3 決算の状況

収益的収支の収益では、三市共同施設の改良工事に係る負担金収入の増などにより、前年度に比べ2億6千万円の増となる17億5千万円を計上した。費用では、三市共同施設に係る改良工事費の増などにより、前年度に比べ2億7千万円の増となる14億6千万円を計上し、差引きで2億8千万円の経常利益となった。特別損益では、廃止負担金などを特別利益で計上し、2億8千万円の利益となった。その結果、当年度純利益は5億6千万円となり、前年度に比べ3千万円の増加となった。

次に、資本的収支の収入では、北配水場跡地の売却代や債券の償還金で、前年度に比べ6千万円の増となる1億4千万円を計上し、支出では、資金運用の債券購入の減などにより、前年度に比べ27億円の減となる3億6千万円を計上した。その結果、資本的収支で不足する額2億2千万円は、損益勘定留保資金などの自己財源で補てんし、年度末の資金残高は77億6千万円となった。

なお、令和2年度から長期的な資金状況の見通しに基づき、29億6千万円の地方債等による運用を実施しており、債券を含めた資金残高は107億2千万円となっている。

### 4 収支構成

#### (1) 収益的収支（事業の管理・運営にかかわる収支）

(単位：億円)  
( )内の%は構成比

収益 20.3	給水収益 10.9(53.7%)	共同施設管理収益 2.6(12.8%)	その他 3.2(15.8%)	特別利益 2.8(13.8%)
	長期前受金戻入 0.8(3.9%)			
費用 14.7	維持管理経費 6.6(44.9%)	共同施設管理費用 4.0(27.3%)	減価償却費等 4.1(27.8%)	純利益 5.6

#### (2) 資本的収支（施設の建設・改良にかかわる収支）

収入 1.4	固定資産売却代 0.4(28.6%)	投資有価証券償還金 1.0(71.4%)	建設改良積立金取崩し 1.0	損益勘定留保資金 1.0	
	←----- 不足額 2.2 を自己財源で補てん ----->				資本的収支調整額 0.2
支出 3.6	配水管網整備等 0.6(16.7%)	設備更新等 2.0(55.5%)	投資有価証券 1.0(27.8%)		

### 5 利益処分（案）について

未処分利益剰余金のうち、建設改良積立金の取崩しに伴い発生した1億円は資本金に組み入れるものとする。また、令和3年度の当年度純利益5億6千万円は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積み立てる。

### 6 業務の状況

給水社数は、使用を廃止したユーザー企業があったことから、1社減となる51社となり、基本使用水量（契約水量）の年間総量は、前年度に比べ42万 $\text{m}^3$ 減少し、4,767万 $\text{m}^3$ となった。給水量は、一部のユーザー企業で使用水量が増加したことから、前年度に比べ50万 $\text{m}^3$ 増加し、2,149万 $\text{m}^3$ となった。

# 令和3年度 決算の概要（下水道事業会計）

## 1 財政状況

(単位：千円)

区 分		令和3年度	令和2年度	前年度差引	増減率
収益的収支 (税抜)	経常損益				
	収 益	12,565,424	11,547,517	1,017,907	8.8%
	費 用	11,144,842	10,906,544	238,298	2.2%
	差 引 (経常利益) ①	1,420,582	640,973	779,609	
	特別損益	25,290	0	25,290	—%
	特別損失	2,433	2,246	187	8.3%
	差 引 ②	22,857	△ 2,246	25,103	
	当年度純利益 ①+②	1,443,439	638,727 (※ 1,446,778)	804,712 (※ △ 3,339)	

※ 仮にコロナ禍における下水道使用料の基本使用料6か月分の減免(808,051千円)を実施しなかった場合の収支である。

資本的収支	収 入	5,574,925	4,468,128	1,106,797	24.8%
	支 出	9,200,251	8,408,608	791,643	9.4%
	差 引 ③	△ 3,625,326	△ 3,940,480	315,154	
	補てん財源 ④	5,373,571	4,534,716	838,855	
資金収支	年 間 ③+④	1,748,245	594,236	1,154,009	
	累 計	14,004,749	12,256,504	1,748,245	

### 処分前残高

建設改良積立金	12,021,192
当年度未処分利益剰余金	1,443,439
前年度繰越利益剰余金	—
当年度純利益	1,443,439
その他未処分利益剰余金変動額	—
建設改良積立金取崩し	—

### 処分後残高

建設改良積立金	13,464,631
繰越利益剰余金	—
議会の議決による処分額	1,443,439
建設改良積立金の積立て	1,443,439
資本金への組入れ	—

## 2 業務実績

区 分		令和3年度	令和2年度	前年度差引	増減率
処 理 面 積	年 度 末	4,048 ha	4,048 ha	—	—%
有 収 水 量	年間総量	54,740,372 m <sup>3</sup>	54,657,818 m <sup>3</sup>	82,554 m <sup>3</sup>	0.2%
	一日平均	149,974 m <sup>3</sup>	149,747 m <sup>3</sup>	227 m <sup>3</sup>	0.2%
降雨量/降雨日数		1,759mm/104日	1,633mm/98日	127mm/6日	7.7/6.1%
雨水放流量		17,521,472 m <sup>3</sup>	15,773,170 m <sup>3</sup>	1,748,302 m <sup>3</sup>	11.1%

### 3 決算の状況

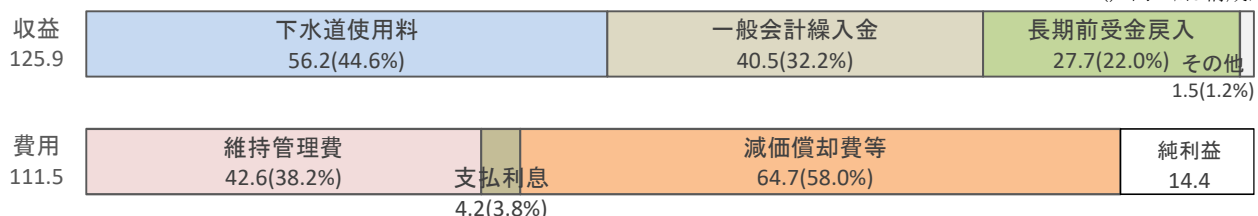
収益的収支の収益では、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ下水道使用料の基本使用料減免を実施していたが、令和3年度は減免を実施しなかったことなどにより、前年度に比べ10億2千万円の増となる125億7千万円を計上した。費用では、委託料や負担金などの物件費の増加などにより、前年度に比べ2億4千万円の増となる111億5千万円を計上し、差引きで14億2千万円の経常利益となった。また、特別損益では、貸倒引当金戻入益などにより2千万円の利益となった。その結果、当年度純利益は14億4千万円となり、前年度に比べ8億円増加となった。なお、仮に令和2年度に減免（8億1千万円）を実施しなかった場合の利益と比較すると、前年度とほぼ同程度の利益となっている。

次に、資本的収支の収入では、国庫補助金や企業債などで、前年度に比べ11億1千万円の増となる55億7千万円を計上し、支出では、管渠改築工事の増などで前年度に比べ7億9千万円の増となる92億円を計上した。その結果、資本的収支で不足する額36億3千万円は、損益勘定留保資金などの自己財源で補てんし、年度末の資金残高は140億円となった。

### 4 収支構成

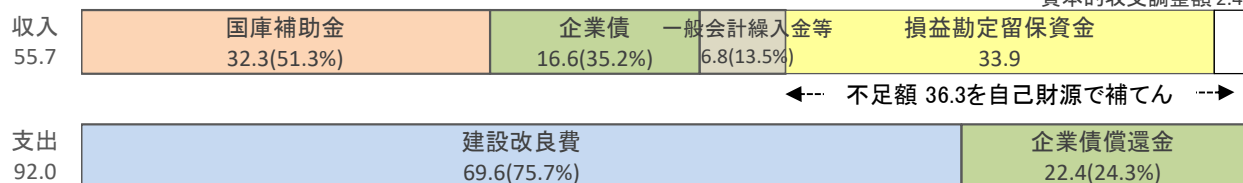
#### (1) 収益的収支（事業の管理・運営にかかわる収支）

(単位：億円)  
( ) 内の%は構成比



#### (2) 資本的収支（施設の建設・改良にかかわる収支）

資本的収支調整額 2.4



### 5 利益処分（案）について

令和3年度の当年度純利益14億4千万円は、施設整備の財源として活用するため、建設改良積立金に積み立てる。

### 6 業務の状況

年間有収水量は5,474万m<sup>3</sup>で、水道の利用者では前年度に比べ1.3%の減少となったが、工業用水ユーザーなどで前年度に比べ11.9%の増加となり、水量全体では0.2%の増加となった。

降雨量については、前年度に比べ7.7%の増加、雨水放流量は、前年度に比べ11.1%の増加となっている。

# 令和3年度 決算の概要（モーターボート競走事業会計）

## 1 財政状況

（単位：千円）

区 分		令和3年度	令和2年度	前年度差引	増減率
収益的収支 （税抜）	経常損益				
	収 益	58,328,545	50,074,639	8,253,906	16.5 %
	費 用	54,571,905	47,254,193	7,317,712	15.5 %
	差 引（経常利益） ①	3,756,640	2,820,446	936,194	
	特別損益 ②	0	0	0	—
当年度純利益 ①+②		3,756,640	2,820,446	936,194	
資本的収支	収 入	0	171,923	△ 171,923	皆減
	支 出	2,052,807	5,471,456	△ 3,418,649	△ 62.5 %
	差 引 ③	△ 2,052,807	△ 5,299,533	3,246,726	
補てん財源 ④		4,042,178	3,419,783	622,395	
資金収支	年 間 ③+④	1,989,371	△ 1,879,750	3,869,121	
	累 計	9,267,179	7,277,808	1,989,371	

処分前残高

利益積立金	1,279,395
建設改良積立金	2,340,226
当年度未処分利益剰余金	11,017,994
前年度繰越利益剰余金	5,366,287
当年度純利益	3,756,640
その他未処分利益剰余金変動額	1,895,067
建設改良積立金取崩し	1,895,067

処分後残高

利益積立金	1,279,395
建設改良積立金	3,040,226
繰越利益剰余金	5,366,287
議会の議決による処分額	5,651,707
建設改良積立金の積立て	700,000
一般会計繰出金	3,056,640
資本金への組入れ	1,895,067

## 2 業務実績

区 分	令和3年度	令和2年度	前年度差引	増減率
開 催 日 数	130 日	130 日	0 日	—
舟券発売金（主催）	54,295,075 千円	46,300,329 千円	7,994,746 千円	17.3 %
一日平均舟券発売金額	417,654 千円	356,156 千円	61,498 千円	17.3 %
舟券発売金のうち電話投票分	38,612,853 千円	31,905,545 千円	6,707,308 千円	21.0 %
一日平均舟券発売金額（電投）	297,022 千円	245,427 千円	51,595 千円	21.0 %
有料入場者数	249,757 人	230,836 人	18,921 人	8.2 %
一日平均有料入場者数	1,921 人	1,776 人	145 人	8.2 %



### 3 決算の状況

#### (1) 事業収支

収益的収支の収益では、電話投票発売金が67億1千万円と大幅に増加したことに加え、本場の無観客開催や場外発売場の休業日が減少したことにより、本場発売金、委託発売金ともに増加したことで、前年度に比べ82億5千万円の増となる583億3千万円を計上した。費用では、施設改修事業に伴う資産減耗費が減少したが、売上連動経費である払戻金や電話投票事務分担金等及び減価償却費が増加したことなどに伴い、前年度に比べ73億2千万円増となる545億7千万円を計上した。その結果、当年度純利益は37億6千万円となり、前年度に比べ9億4千万円の増加となった。

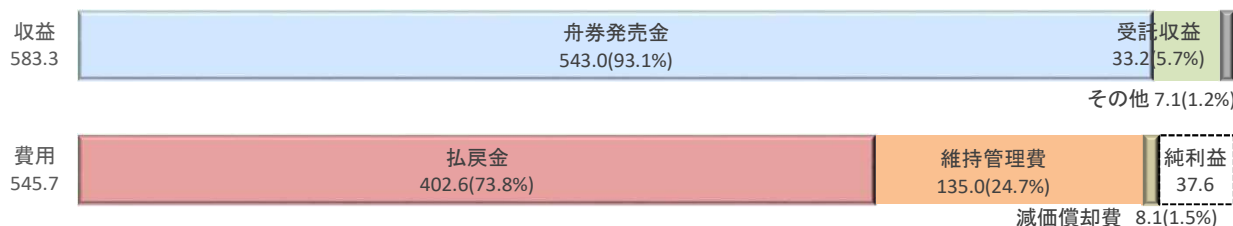
次に、資本的収支の収入は無く、支出では、利益処分による繰出し、地方債等の購入が皆減したこと及び機械器具購入費が減少したことで、前年度に比べ34億2千万円の減となる20億5千万円を計上した。その結果、資本的収支で不足する額20億5千万円は、建設改良積立金などの自己財源で補てんし、年度末の資金残高は92億7千万円となった。

なお、令和2年度に長期的な資金状況の見通しに基づき、11億円の地方債等による運用を実施しており、債券を含めた資金残高は103億7千万円となっている。

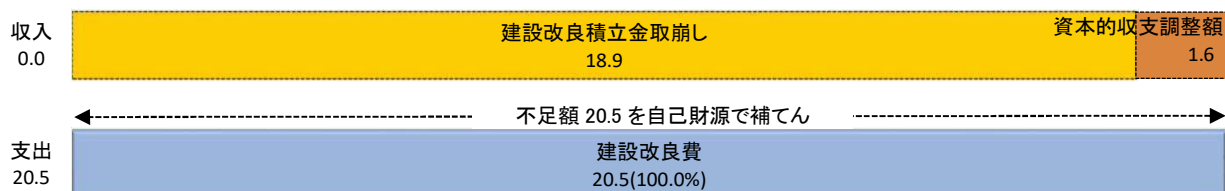
### 4 収支構成

#### (1) 収益的収支（事業の管理・運営にかかわる収支）

(単位：億円)  
( )内の%は構成比



#### (2) 資本的収支（施設の建設・改良にかかわる収支）



### 5 利益処分（案）について

未処分利益剰余金のうち、建設改良積立金の取崩しに伴い発生した19億円は、資本金に組み入れるものとする。また、令和3年度決算での当年度純利益37億6千万円については、一般会計とのルールにより、7億円を施設整備の財源として活用するための建設改良積立金に積み立て、残りの30億6千万円については、「一般会計への繰出し」とする。（営業外費用計上分3億2千万円を含めると一般会計繰出金は33億8千万円となる。）

### 6 業務の状況

開催日数は前年度と同じく130日であったが、新型コロナウイルス感染症の影響による本場の無観客開催は前年度に比べ18日減少し、6日間となった。

舟券発売金は、電話投票発売金が21.0%増加したことなどにより、前年度に比べ17.3%の増加となる543億円となった。

本場の有料入場者数は前年度より1万9千人増加し、25万人となった。しかしながら、これは無観客開催日数の減少によるものであり、無観客開催を除いた一日平均有料入場者数は前年度に比べ164人減少した。